

年末年始の各業務日程

【役場・町図書館業務】

◆役場一般業務＝12月29日(土)～1月3日(木)まで休みます。

◆町図書館業務＝12月29日(土)～1月3日(木)まで休みます。

【日野病院】

年末年始は12月29日(土)～1月3日(木)まで休診します。この期間中の診察は救急患者のみとなり、緊急性のない軽症の患者の診察などは行いません。

問合せ 日野病院(電話 72-0351)

【可燃ごみの収集】

年末年始は12月29日(土)～1月3日(木)まで休みます。なお、1月4日(金)に可燃ごみ全町一斉収集をします。

問合せ 役場建設水道課(電話 72-0350)

【クリーンセンターくぬぎの森へのごみの持ち込み】

事業所は12月28日(金)午後4時30分まで持ち込み可能で

す。センターは、12月29日(土)～1月3日(木)まで休みます。

問合せ クリーンセンターくぬぎの森(電話 74-0333)

【リサイクルプラザ(伯耆町)】

12月29日(土)～1月3日(木)まで休みます。

問合せ リサイクルプラザ(電話 0859-68-4071)

【し尿汲み取り】

年内は12月27日(木)の申込みまで受け付けます。12月28日(金)から休業し、1月7日(金)から受け付けを行います。

問合せ いづはら(電話 0859-24-0566)

【JR西日本(伯備線)】

12月31日(月)～1月3日(木)までは曜日にかかわらず、『土休日ダイヤ』で運行します。平日ダイヤと異なりますので、ご注意ください。

問合せ 西日本旅客鉄道株式会社米子支社輸送係(電話 0859-

32-8057)

【町営バス】

1月1日(火)から1月3日(木)まで運休します。1月4日(金)から通常どおり運行します。

問合せ 役場企画政策課(電話 72-0332)

【日ノ丸バス(米子線)】

① 12月31日(月) 最終便

《日野病院行(米子駅発)》

▶ 18:00 (19:03 日野病院着)

《米子駅行(日野病院発)》

▶ 16:30 (17:33 米子駅着)

② 1月1日(火)～3日(木)は、土・日・祝日ダイヤで運行します。

《日野病院行(米子駅発)》

▶ 11:56 (12:55 日野病院着)

▶ 16:36 (17:35 日野病院着)

《米子駅行(日野病院発)》

▶ 9:11 (10:10 米子駅着)

▶ 14:01 (15:00 米子駅着)

問合せ 日ノ丸自動車株式会社米子支店(電話 0859-32-2123)

雪おろし などでお困りのときは…

町から協力要請をしている業者の一覧です。料金は有償となります。雪おろしなどを依頼される場合は、それぞれの相談窓口または業者と相談のうえ、依頼してください。

○日野町建設業協会 相談窓口：稲田組(電話72-1245)

(加盟業者) ・中村建設 72-0016 ・高橋建設 72-0128
・稲田組 72-1245 ・原明建設 74-0020 ・佐伯建設 72-0070

○日野町建築協会 相談窓口：ナギラ建築(電話72-1329)、池座建築(電話090-7507-3956)

○鳥取日野森林組合(電話72-0066) ※倒木処理など(料金は状況による)

○上記以外の業者 ・遠藤工務店 72-0285 ・西村建築事務所 090-6840-8954
・宮脇鉄工所 72-1098 ・日野建築工務店 72-0666

【作業料金】

※上記の料金は、目安の金額です。状況により変わりますので、業者とご相談ください。

作業内容または使用機器	単位	1時間あたりの費用
人力での除雪(雪かき)	1人	2,500円
人力での除雪(屋根からの雪下ろし)	1人	3,000円
ミニパワーショベルなどの操縦者派遣	1人	2,500円
ミニパワーショベル(除雪作業)	1台	2,000円
台車によるミニパワーショベルなどの移送		実費
2トンドンプ(雪の回収)	1台	1,500円
4トンドンプ(雪の回収)	1台	2,000円

【問合せ先】 役場総務課(電話 72-0331)

思いやりの心こそ 人権尊重への第一歩



人権啓発講演会および
第43回日野町人権・同和教育研究集会

【人権啓発講演会】

演題：「いのちと仕事～いのちをいただく～」

講師：坂本義喜さん(元熊本市食肉センター解体作業員)

theme 1 人権尊重のまちづくりをしよう “人権啓発講演会”

「食肉解体業」という仕事。皆さん知っていますか？

11月8日、町文化センターで人権啓発講演会および第43回日野町人権・同和教育研究集会が開かれました。講演会では、元熊本市食肉センター解体作業員の坂本義喜さんが、「いのちと仕事～いのちをいただく～」と題し、講演を行いました。

坂本さんの父親もそうした職業に就いていましたが、当時は父の仕事に誇りを持つことができなかつたそう。「汚い、カッコ悪い。絶対父親の仕事には就きたくない」と考えていました」と坂本さんは振り返ります。

坂本さんは、長年、食肉解体作業員として働いてきました。しかし、日々の業務に追われ、動物の死などについて何も感じたことはなかつたそうです。そんな中、ある出来事が坂本さんを変えることに。講演では、坂本さんが働く中で感じた「仕事の意味」「いのちの尊さ」について参加者に語りかけました。

食肉解体作業とは、牛や豚などの家畜を解体（食肉処理）し、食肉に加工することです。かつては、被差別部落に暮らす人たちが担わされてきた仕事でした。

「進学も難しく、嫌々、父親に相談したんです。今なら分かりますが、直に息子から『父の仕事は嫌だ』と言われ、内心辛かったと思います」と坂本さん。その後、大阪の食肉小売店で板前の修業を行うことになりましたが、そこで食肉解体業に対する偏見に初めて直面することになります。

「通りがかりの人に、ひどい言葉を浴びせられたんです。先輩に相談すると、先輩は、『それは肉屋を馬鹿にした言葉だ。何より一番悔しいのは、馬鹿にしな